

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 資料調査のためのオンデバイスくずし字認識

2. 個人研究者名

カラーヌワット タリン (情報・システム研究機構

データサイエンス共同利用基盤施設 特任助教)

3. 事後評価結果

本 ACT-X 研究は、所属する人文学オープンデータ共同利用センターのくずし字認識サービス KuroNet を基盤として、オンデバイスでくずし字を認識するモバイルアプリの開発を計画するものでした。

当初の計画に記載されていたサーバ非依存で、オンデバイス処理可能なモデルを実現する開発は、研究期間の短縮に伴い未達となりましたが、ユーザ視点に立脚した利便性の高いユーザインタフェースを擁するスマホアプリである AI くずし字認識アプリ「みを(miwo)」を完成させ、無償公開する至った点は、人文学研究者の研究進展に有効であるとともに、古典文学に関する社会認識を変革する端緒となりえる成果として評価できます。

また、研究成果がスマホアプリとして公開されたことは、ニュースや SNS でも大きな反響を呼び、研究者のみならず、多くの一般ユーザが利用し、評価できるようになった点で、社会への波及効果があったと認められます。

今後、開発アプリの精度が向上し、古文書の翻刻能力が進展することで、多数の利用者によって、文学分野や歴史分野などへの適用が進み、埋もれていた新史料の発見などに繋がることになれば、AI 技術と人文学分野との連携の可能性が更に高まるものと思われれます。